

# 日本語の「ように」にあたるビルマ語表現

The Burmese Expression Corresponding to the Japanese Word “youni”

トゥザ ライン

Thuzar Hlaing

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa,

Tokyo University of Foreign Studies

## 要旨

本稿は日本語の「ように」にあたるビルマ語表現について考察したものである。前田（2022）の15個の用例を援用し、前田（2006、2022）の文法解説に従って分析を行った。その結果、ビルマ語では前田（2006）の4用法のうち、「思考・知覚内容を表す用法」を除いて、「類似事態を表す用法」「結果・目的を表す用法」「命令・祈願内容を表す用法」を持っていることが確認でき、「ように」を“-*t̃àlò* 系”と“-*ʔàun/-pʰò* 系”に整理することができた。一方、「類似事態」を表す場合と「結果・目的」を表す場合から派生したとみられる周辺的な用法を持つことも確認できた。*-t̃àlò* は「並列」を表す接続助詞として機能する場合があり、*-ʔàun* は「程度・限度」を表す場合がある。

This paper identifies the Burmese expression that corresponds to *youni*. The 15 examples given by Maeda (2022) were analysed according to the grammatical explanation proposed by Maeda (2006/ 2022). The results indicated that among the four usages proposed by Maeda (2006), it was found that Burmese language has “Appearance Similarity,” “Resultant Purpose,” and “Contents



of Utterance” except “Contents of Thought.” In Burmese, *youni* can be divided into two groups: the first one is *-ṭṭlò* and the other one is *-ṭṭaun* or *-pʰó*. In addition, Burmese has peripheral usages that derived from the “Appearance Similarity” and “Resultant Purpose.” *-ṭṭlò* is used as a conjunctive particle for the Contrast, and *-ṭṭaun* is used to express the Degree or Limit.

キーワード：類似， 比喩， 結果・目的， 並列， 程度・限度

Keywords: Similarity, Simile, Resultant Purpose, Contrast, Degree or Limit

## はじめに

ビルマ語は日本語と同様基本語順が SOV 型であり、類型的な特徴も似ている。しかし、その詳細においては多くの違いが観察される。本稿では、その違いの一つである、日本語の従属節「ように」に対応するビルマ語の表現について記述を行うことにする。

日本語の「ように」には様々な用法があり、その「ように」にあたるビルマ語表現は各用法によって異なる。前田（2006）では、従属節としての「ように」節は意味的には「類似事態を表す用法」〈Appearance Similarity〉、「思考・知覚の内容を表す用法」〈Contents of Thought〉、「結果・目的を表す用法」〈Resultant Purpose〉、「命令・祈願の内容を表す用法」〈Contents of Utterance〉の4種に分類されており、以下のようにまとめられている。

表1：「ように」節の4分類（前田 2006: 4）

主節に対して	
修飾・付加的	必須・補足的
〈類似事態〉	〈思考・知覚内容〉
〈結果・目的〉	〈命令・祈願内容〉

以下でこの4用法の説明として使われている例文にビルマ語の翻訳を付けておく。

なお、特に断りがない限り、本稿でのビルマ語翻訳は全て筆者による。

## 1. 類似事態を表す用法 〈Appearance Similarity〉

「ように」節が主節に対して修飾・付加的に従属し、主節事態の様々な様子、様態を表す場合の用法である。

### A) 美那子は驚いたように叫んだ。(ibid.: 124)

翻訳 A-1: mīnākò=gā ?ân?áŋŋ=ǰwá=ǰǎ=lò=nê thâ~?ò=lai?=tè.

NAME=TOP surprise=AUX.cc=VS.RLS=like=INS stand~cry=AUX.dcsv=VS.RLS

「美那子は驚いてしまったように叫び出した。」

翻訳 A-2: mīnākò=gā ?ân?áŋŋ=ǰwá=ǰê pòunzàn=nê thâ~?ò=lai?=tè.

NAME=TOP surprise=AUX.cc=AC.RLS shape=INS stand~cry=AUX.dcsv=VS.RLS

「美那子は驚いてしまった様子で叫び出した。」

## 2. 思考・知覚の内容を表す用法 〈Contents of Thought〉

「ように」節が主節に対して必須・補足的に従属する場合の用法である。

### B) 昨日は雨が降らなかったように思う。(ibid.: 124)

翻訳 B-1: mǎnêgā mó+mǎ-ywà=ǰǎ=lò=bé.

yesterday rain+not-fall=VS.RLS=like=DM.foc

「昨日は雨が降らなかったようだ。」

翻訳 B-2: mǎnêgā mó+mǎ-ywà=bú(=lô) th̄in=dè.

yesterday rain+not-fall=VS.NEG(=QUOT) think=VS.RLS

「昨日は雨が降らなかったと思う。」

3. 〈結果・目的を表す用法〉 〈Resultant Purpose〉

主節に対して修飾・付加的に従属し、一般に「目的」を表す場合の用法である。

C) 試験に合格するよう（に）一生懸命勉強した。(ibid.: 124)

翻訳 C-1: sàmébwé ?àun=bô(=lô)=?ätwε? ?äpa?dägou? teózá=gê=dè.

exam pass=PURP((=CAUS)=PURP) diligently try=AUX.def=VS.RLS

「試験に合格するよう（に）一生懸命努力した。／試験に合格するために一生懸命努力した。」

翻訳 C-2: sàmébwé ?àun=?àun(=lô) ?äpa?dägou? teózá=gê=dè.

exam pass=PURP(=CAUS) diligently try=AUX.def=VS.RLS

「試験に合格するよう（に）一生懸命努力した。」

4. 〈命令・祈願の内容を表す用法〉 〈Contents of Utterance〉

「ように」節が主節に対して必須・補足的に従属するが、意味的には命令・祈願の内容を示す場合の用法である。

D) 朝、電話をくれるよう（に）頼んだ。(ibid.: 125)

翻訳 D: mǎnε?-páin p<sup>h</sup>óun+s<sup>h</sup>ε?=p<sup>h</sup>ô hmà=dè.

morning-part telephone+contact=PURP ask=VS.RLS

「朝、電話をくれるよう（に）頼んだ。」

上の例でみると「ように」にあたるビルマ語表現は各用法によって異なることが分かる。例文 A)の「ように」には-tǎ=lò（以下、グロス以外の箇所では-tǎlòにする）と pòun(zàn)、例文 C)には-bô(=lô)=?ätwε?と-?àun(=lô)、例文 D)には-p<sup>h</sup>ô が対応する。また、例文 B)のような「ように思う」という表現にあたるビルマ語表現がなく、-tǎlò「ようだ」または-lô thín「と思う」という表現に言い換えなければならない。

以上の翻訳から分かるように、「ように・ようだ」にあたるビルマ語は「類似事態を表す用法」と「思考・知覚の内容を表す用法」のときの「-t̚ǎ̀lò/-d̚ǎ̀lò や pòun(zàn)」(便宜上-t̚ǎ̀lò 系と呼ぶ、以下同様)と「結果・目的を表す用法」と「命令・祈願の内容を表す用法」のときの「-ʔàun と -pʰò/-bò」(便宜上-ʔàun/-pʰò 系と呼ぶ、以下同様)に大きく2グループに分かれる。なお、例文 B)の「ように思う」は直接ビルマ語にあたる表現がないため、ビルマ語においては「思考・知覚の内容を表す用法」が基本的に存在しないと言っていいだろう(その類似表現についてはI.6で後述する)。この4分類に対応するビルマ語をまとめると、以下表2のようになる。

表2: 「ように」節の4分類に対応するビルマ語 (前田 2006: 4 を改変)

主節に対して		
修飾・付加的	必須・補足的	
〈類似事態〉	〈思考・知覚内容〉	-t̚ǎ̀lò 系
〈結果・目的〉	〈命令・祈願内容〉	-ʔàun/-pʰò 系

以下、表2を基に、「ように」節にあたるビルマ語表現について検討する。第I章では「ように」の意味を用例とともに確認し、ビルマ語との対応を考察する。その際、意味解説については、「ように」を包括的に扱っている前田(2006)に従い、用例分析については「ように」を日本語学習者向けに分かりやすく説明している前田(2022)を用いる。第II章では、それぞれビルマ語の-t̚ǎ̀lò 系と-ʔàun/-pʰò 系に関する文法事項を補足し、第III章では、「結果・目的を表す用法」に現れる-ʔàun と -pʰò の違いについて考察する。なお、例文番号は、前田(2006)の「ように」節の4分類の例文は「A)~D)」、前田(2022)の15個の例文は原文通り「例1、例2、など」にし、その他の例文は「(1)、(2)、など」にしてある。

## I. 日本語の「ように」の意味用法

本章では、日本語の「ように」の意味を確認し、ビルマ語との対応を考察する。上に述べたように、意味解説は基本的に前田（2006）に従うが、用例分析は、わずか15個の例文で「ように」の意味を簡潔に説明している前田（2022）に従う。

まず、前田（2022）の「ように」と「ようだ」の文法解説を引用する形で紹介し、次にその15個の例文と解説を参照しつつ、「ように」にあたるビルマ語表現を探る。

前田（2022）によると、文末に使われる「ようだ・ようである」は、知覚情報から得られた根拠に基づく（例えば調査データを見ての）判断、すなわち「推定」を表す。

例1 需要と供給には関係があるようだ。

この「ようだ」は「ように」となって使われる場合が多く、例えば「ようになる」「ようにする」という形がある。全体で一つの表現となり、「ようになる」は変化を、「ようにする」は変化の引き起こしを表す。

例2 田中さんはフランス語が話せるようになった。（＝ように変化した）

例3 この場所を誰でも使えるようにした。（＝ように変化させた）

正確には、変化を表すのは「なる」、変化を引き起こすのは「する」という動詞で、「A ように B。」という文の「A ように」の部分は、変化後の状態を表し、例えば例2は、「田中さんが変化」して「フランス語が話せる」という状態に変わったことを表す。このように A と B の関係に注目すると、「ように」の用法は次のように整理できる。

表 3：前田（2022）による「ように」のまとめ

複合的な述語	① ようになる・ようにする	
↓		
引用成分	② (～する) ように言う	④ (～する/した) ように思う
修飾成分	③ 目的・結果	⑤ 類似・比喻
	×	○
「ように」の前に「た」形が接続できるか		

「ようになる」に最も似ているのは、②の「(～する) ように言う」のタイプで、「A ように言う」の A の部分には命令の内容が入る。例 4 は「早く仕事を終わらせろと言った」に近い。

例 4 部長は部下たちに早く仕事を終わらせるように{言った・命じた}。

「A ように」の A が命令の内容でないときは、③「目的・結果」を表す（例 5～例 7）。

例 5 この PC は、目が不自由な人も利用できるように、設計されている。

例 6 この昇進制度は男性に有利なようにできている。

例 7 日本人は人に迷惑をかけないようにと常に気をつけている。

「ようにと」のように「と」が現れる場合もある（例 7）。この①②③はいずれも、「A ように」の部分が B の後から生じる、ということを表す。そのため、A には「た」形が使えない。それに対して④「(～する/～した) ように思う」は、主に「思う」「感じる」「思える」「見える」のような動詞とともに使い、これらの認識が不確かなものであることを表す（例 8～例 11）。

例 8 ここには昔、大きな教会があったように思う。

例 9 彼らは、民主党系のエリートたちがトランプ氏をなじるのを聞いて、自分たちもばかにされているように感じた。

例 10 この結果だけを見ると、先ほどの一つ目の説が正しいように思える。

例 11 同質性の高い社会を生きる人々は、閉鎖的であるように見える。

例 8 は「ここには昔、大きな教会があった」に「ようだ」と「思う」が接続してできあがった文で、もし「ようだ」も「と思う」もなく、「ここには……があった。」だけであれば、話し手は事実（だと話し手が断定していること）を述べている。「ここには……があったようだ。」であれば、話し手は何らかの根拠（例えば大きな建物の跡や崩れた十字架など）に基づいて、「教会があった」ことを推定している。「ここには……があったと思う。」であれば、話し手は、事実かどうかわからない「教会があった」ことを、話し手の個人的な判断・意見として述べている。そして「ここには……があったように思う。」では、話し手の個人的な意見・判断が、何らかの根拠に基づいたものであることが述べられる。何らかの根拠に基づいたことを、話し手の個人的な判断・意見として述べるため、話し手の控えめな主張、すなわち「このような考え方もできるのではないか」という不確かな主張が示される。

最後に⑤類似・比喻の「A ように B」は、A と B の間に類似性があることを表す。類似しているものを示すので、比喻（特に「～かのように」の場合）、あるいは例示（特に「～のように」の場合）の意味を持つこともある。

例 12 「うそだ」とびっくりしたように言った。

例 13 飛ぶように売れていった。

例 14 大怪我だったのに、何事もなかったかのように、一人で歩いて帰った。

例 15 この調査結果は、次のようにまとめることができます。

以上、前田（2022）の「ように」と「ようだ」の意味を用例と共に確認した。ここからは、上記の「ようだ」及び①から⑤の項目に沿った 15 個の用例と文法解説を基に、本稿におけるビルマ語との対応を検討する。

#### 1. 例 1 の分析：「ようだ」が「推定」を表す場合

例 1 は日本語の「ようだ」が「推定」を表す場合である。日本語の場合、「ようだ」は「ように」となって、「ようになる」「ようにする」という全体で一つの表現とな

っており、「よくなる」は変化を、「ようにする」は変化の引き起こしを表す。それに対し、ビルマ語は表2で示したように用法によって使われる形式が異なる。例1のような類似事態を表す用法の場合は-lòや pòunを使う。

類似性を表す-lòと pòunは意味的に近く、どちらも知覚情報から得られた根拠に基づく(例えば調査データを見ての)判断、すなわち「推定」を表す。ただし、それはあくまでも話し手による判断あるいは推定であり、聞き手からは情報の信憑性を問うことはできない。そのため、-lòと pòunは話し手の認識が不確かなものであることを表すときにも使われる(例8~例11の分析を参照)。

また、-lòは付属語であり、動詞に後続する場合は-tǎlòに変わる<sup>1</sup>。-lòには-lòlòという重複形があり、-lòを重ねることによって認識の確かさが低下し、曖昧さが増える。例えば、-tǎlòは「よう」の意味を表し、-tǎlòlòは「かのよう／ほぼ...よう」の意味を表す。そのため、-tǎlòlòは「ように思う」により近いと言える。一方、pòunはそれ自体が名詞であり、単独では「姿・形・様子」という意味を持つ。以下、例を見てみる。

〈例1 需要と供給には関係があるようだ。〉

- (1) wèlòʔá=nê yáunlòʔá=gâ ʔăpyànʔăhlàn tɛʔyauʔhmú ɛi=dǎ=lò=bé.  
demand=COM supply=TOP reciprocally affect exist=VS.RLS=like=DM.foc  
「需要と供給は互いに関係があるようだ。」

- (2) wèlòʔá=nê yáunlòʔá=gâ ʔăpyànʔăhlàn tɛʔyauʔhmú ɛi=dǎ=lòlò=bé.  
demand=COM supply=TOP reciprocally affect exist=VS.RLS=rather.like=DM.foc  
「需要と供給は互いに関係があるかのようだ(／ように思う)。」

- (3) wèlòʔá=nê yáunlòʔá=gâ ʔăpyànʔăhlàn tɛʔyauʔhmú ɛi=dê=pòun=bé.  
demand=COM supply=TOP reciprocally affect exist=AC.RLS=shape=DM.foc  
「需要と供給は互いに関係がある様子だ。」

例(1) (2) (3)は、いずれも「需要と供給に関係する」情報に基づいて伝えているもので、「推定」を表すという点では意味的に違いがない。例(1)と(3)は使われている形式は異なるが、「推定」の度合いにおいてはほぼ同じだと考えられる。一方、例(2)が表す「推定」の度合いは例(1)と(3)に比べ、やや低めで、話し手の認識がより不確かなものであることが分かる。

## 2. 例2の分析：「ようになる」が変化を表す場合

例2は「ように」と「なる」が「ようになる」全体で一つの表現となる変化を表す複合的な述語である。「なる」動詞によって、「A ように B。」という文の「A ように」のAが変化後の状態を表す。「A ように」の部分はBの後から生じる。

〈例2 田中さんはフランス語が話せるようになった。(=ように変化した)〉

(4) t à n à k à - s à n    p y ì n t i ? = l ò    p y ó = d a ? = t w á = b i .

NAME-HON    France=like    speak=AUX.skill=AUX.cc=VS.INC

「田中さんはフランス語が話せるようにな (っていっ) た。」

(5) t à n à k à - s à n    p y ì n t i ? = l ò    p y ó = d a ? = l à = b i .

NAME-HON    France=like    speak=AUX.skill=AUX.pc=VS.INC

「田中さんはフランス語が話せるようにな (ってき) た。」

このように変化を表すときは、移動動詞の-twá「行く」と-la「来る」を使う。ビルマ語の-twá と-la には本動詞としての空間移動を表す「行く・来る」の意味のほか、日本語の「～ていく・～てくる」のように複合的な述語としても使われる。このような複合的な「行く・来る」について、岡野 (2003: 327) は「-twá と-la は、変化を表す動詞<sup>2</sup>の後ろに現れて変化の進行の度合いを表す。-twá の場合は変化が完全に終了したこと、あるいはそれが過度になったことを表す」と述べる。

例(4)と例(5)を見ると、-twá を使った例(4)は「完全に話せるようになった」つまり

「フランス語をマスターした」という意味を表し、-là を使った例(5)は「だんだん話せるようになった」という変化の過程を表す意味になる。

しかし、「A ように」の部分に知覚動詞が来る場合は、注意が必要である。知覚動詞の後に「行く」の意味を持つ-twá が付く場合と、「得る」の意味を持つ助動詞-yâ (AUX.inev) が付く場合とで意味が違う。例えば、「見る」「聞こえる」に-twá が付いたときは「見えてしまった・見られてしまった／聞こえてしまった・聞かれてしまった」となり、話し手以外の人が「見えた・聞こえた」ことを意味する。-yâ が付いたときは「見え(るようになった)た／聞こえ(るようになった)た」となり、「見えた・聞こえた」の対象は話し手自身であることを意味する。そのため、知覚動詞を変化の場面で使うときは、変化後の状態を知覚・認知できる主体を考えなければならない。

(6) myin=dwá=bi.

see=AUX.cc=VS.INC

「見えてしまった・見られてしまった。」

teá=dwá=bi.

hear=AUX.cc=VS.INC

「聞こえてしまった・聞かれてしまった。」

(7) myin=yâ=bi.

see=AUX.inev=VS.INC

「見えるようになった。」

teá=yâ=bi.

hear=AUX.inev=VS.INC

「聞こえるようになった。」

従って、状態変化を表す「ようになる」の場合、「A ように」の A が知覚内容以外の場合は-twá と-là を使って表現する。A が知覚内容の場合、変化後の状態を受ける主体が話し手以外のときは-twá が使われ、変化後の状態を受ける主体が話し手自身のときは-yâ が使われる。

### 3. 例3の分析：「ようにする」が変化の引き起こしを表す場合

例3は「ように」と「する」が「ようにする」全体で一つの表現となり、変化の引

き起こしを表す複合的な述語である。「する」動詞によって、「A ように B。」という文の「A ように」の A が変化後の状態を表す。「A ように」の部分は B の後から生じる。

〈例 3 この場所を誰でも使えるようにした。(=ように変化させた)〉

(8) di=nèyà=gò            bèḡù=mǎ-sʰò      ɣóUN=lò      yâ=?àUN      lou?=tè.  
 this.DET=place=ACC    who=not-say      use=CNSQ    get=PURP    do=vs.RLS

「この場所を誰でも使えるようにした。」

このように変化の引き起こしを表すときは、日本語と同様に-?àUN「ように」と lou? 「する」が全体となった複合的な述語-?àUN lou? 「ようにする」を用いる。例(8)は、「この場所を誰もが使えるように変化させた」という場所が使える状態になるように変化を引き起こしたことを表す。従って、変化の引き起こしを表す「ようにする」はビルマ語の-?àUN lou?に対応する。ただし、-?àUN の前に変化を表す状態動詞が来る場合は-?àUN thá になることがある (II.2 を参照)。

4. 例 4 の分析：「(～する) ように言う」が命令・祈願の内容を表す場合

例 4 は②の「(～する) ように言う」のタイプで、前田 (2006) の 4 用法のうち「命令・祈願の内容を表す用法」〈Contents of Utterance〉にあたる。「A (する) ように言う」の A の部分には命令の内容が入る。「A ように」の部分は B の後から生じる。ビルマ語も同様な規則を持っている。

〈例 4 部長は部下たちに早く仕事を終わらせるように{言った・命じた}。〉

(9) thànâhmú=gâ      lɛ?-?au?=kâ      wùndán=dwè=gò      ?ǎlou?      sózó  
 manager=NOM    hand-under=LOC    staff=PL=ACC            work      early  
 léin=bò            {pyó=dè/ ?ǎmêin+pé=dè}.

close=PURP {say=vs.RLS/ command+give=VS.RLS}

「部長は部下たちに早く仕事を片付けるように{言った/命じた}。」

また、この例 4 は「早く仕事を終わらせろと言った」に近いとされる。ビルマ語にも例(10)のように-k<sup>h</sup>áin<sup>3</sup>（～させる/～するように言う）という使役要素を用いて表す表現がある。

〈部長は部下たちに早く仕事を終わらせろと言った〉

(10) t<sup>h</sup>ànáhmú=gâ lɛʔ-ʔauʔ=kâ wùndán=dwè=gò ʔǎlouʔ sózó  
 manager=NOM hand-under=LOC staff=PL=ACC work early  
 ʔéin=gáin=dè.  
 close=AUX.caus=VS.RLS

「部長は部下たちに仕事を早く片付けろと言った。」

#### 5. 例 5～例 7 の分析：「ように」が目的・結果を表す場合

例 5～例 7 は「A ように」の A が命令の内容でないときであり、③「目的・結果」を表す。「A ように」の部分が B の後から生じる。前田（2006）の 4 用法のうち、「結果・目的を表す用法」〈Resultant Purpose〉にあたる。

前田（2006: 3）によれば、結果・目的を表す「ように」の前に来る述語は可能動詞や動詞否定形、あるいは異主体の動作など、主節動作主が意志的にコントロールできない事態が来る。

ビルマ語では結果・目的を表す「ように」として-ʔàun または-p<sup>h</sup>ô が使われる。（参照：C) 翻訳 C-1 と C-2)

-ʔàun は日本語の結果・目的を表す「ように」と同様な性質も持っている。それに対し、-p<sup>h</sup>ô は「ように」のほかに「するために/すること」の意味も持っている。-ʔàun と -p<sup>h</sup>ô の違いについては第 III 章で考察する。

〈例 5 この PC は、目が不自由な人も利用できるように、設計されている。〉

- (11) di=PC=gò                    ʔămyìn-ʔàyòun      tɛʰôywin=dɛ̃=dù=dwè=lé  
 this.DET=PC=ACC    view-sense            miss=AC.RLS=preson=PL=also  
 ʔă-tʰòun+pyû=nàin=ʔàun            dìzáin+sʰwé=tʰá=dè.  
 NMLZ-use+do=AUX.pos=PURP    design+draw=AUX.situ=VS.RLS

「この PC を目が不自由な人も利用できるように、設計しておいた（／されてい  
 る）。」

〈例 6 この昇進制度は男性に有利なようにできている。〉

- (12) di=yádútó-sāniʔ=kā                    ʔămyóǰá=dwè=ʔátwɛʔ      ʔăteó+ɛi=ʔàun  
 this.DET=promotion-system=NOM    man=PL=PURP                    benefit+exist=PURP  
 louʔ=tʰá=dè.  
 do=AUX.situ=VS.RLS

「この昇進制度は男性に有利になるようにしてある。」

〈例 7 日本人は人に迷惑をかけないようにと常に気をつかっている。〉

- (13) jābàn-lùmyó=dwè=gâ      tʰùdǎbá=gò                    ʔăhnauʔʔăɛʔ  
 Japanese-race=PL=TOP    other.person=ACC    disturbance  
 mā-pé=mî=ʔàun                    ʔămyé      ǰǎdî+tʰá~nè=dè.  
 not-give=AUX.uncons=PURP    always      care+put~stay=VS.RLS

「日本人は人に迷惑をかけ（てしまわ）ないようにと常に気をつかっている。」

例(11)～(13)で見られるように、ビルマ語は日本語のような動詞活用ができないため、自発的な内容のような場合、主節の動詞に「～て置く／～てある」のような補助動詞が付いて、複合的な述語として現れる。また、ビルマ語には形容詞が存在しないため、例 6 のような形容詞節の場合も動詞を使って表現する。

また、ビルマ語では日本語のような可能形にすることもできない。そのため、目的



「この場所には昔、大きな教会が（一つ）あったと思う。」

〈例9 彼らは、民主党系のエリートたちがトランプ氏をなじるのを聞いて、自分たちもばかにされているように感じた。〉

(16) ɣù=dò=hà      dimòkàrèsi-pàti      ʔăteí-báin=dwè=gâ      tʰăyân=ʔăpò  
 3SG=PL=TOP    democracy-party    top-part=PL=NOM    NAME=upon  
 wèbàn=nè=hmû=gò      teáŋ=bí      mîmî=dò=gò=lé  
 criticise=AUX.situ=NMLZ=ACC    hear=COSQ      myself=PL=ACC=DM.cnt  
 hlâunpyàun=nè=dǎ=lò      kʰànzá=mî=dzâ=dè.  
 ridicule=AUX.situ=VS.RLS=like    suffer=AUX.uncons=AUX.mut=VS.RLS

「彼らは、民主党系のエリートたちがトランプ氏をなじるのを聞いて、自分たちもばかにされているように感じた。」

〈例10 この結果だけを見ると、先ほどの一つ目の説が正しいように思える。〉

(17) dì=yâlaʔ=kô=bé      teí=mè      sʰò=yìn      ɣûnâkâ  
 this.DET=outcome=ACC=DM.foc    look=VS.IRR    say=COND    earlier  
 pǎthâmâ      éinpyâdzɛʔ=kâ      hmàn=dǎ=lòlò=bé.  
 first      explanation=NOM    correct=VS.RLS=rather.like=DM.foc

「この結果だけを見ると、先ほどの一つ目の説が正しいようだ。」

(18) dì=yâlaʔ=kô=bé      teí=mè      sʰò=yìn      ɣûnâkâ  
 this.DET=outcome=ACC=DM.foc    look=vs.IRR    say=COND    earlier  
 pǎthâmâ      éinpyâdzɛʔ=kâ      hmàn=dǎ=lò      tʰìn=yâ=dè.  
 first      explanation=NOM    correct=VS.RLS=like      think=AUX.inév=VS.RLS

「この結果だけを見ると、先ほどの一つ目の説が正しいように思える。」

(19) dì=yâlaʔ=kô=bé      teí=mè      sʰò=yìn      ɣûnâkâ  
 this.DET=outcome=ACC=DM.foc    look=vs.IRR    say=COND    earlier

pă<sup>h</sup>ămâ      eínpyâdzε?<sup>?</sup>kâ      hmàn=dè=lò      thìn=yâ=dè.  
 first      explanation=NOM      correct=VS.RLS=QUOT      think=AUX.inev=VS.RLS

「この結果だけを見ると、先ほどの一つ目の説が正しいと思う。」

〈例 11 同質性の高い社会を生きる人々は、閉鎖的であるように見える。〉

(20) ?ǎlùn      tǎtádéteâ=nè=dê      lù?ǎp<sup>h</sup>wê?<sup>?</sup>ási=hmà      ?ǎε?<sup>?</sup>eìn=nè=dù=dwè=gò  
 very      indivisibly=AUX.situ=AC.RLS      society=LOC      live=AUX.situ=person=PL=ACC  
 ?ǎ-peì?<sup>?</sup>-ǎbó=sàn=nè=dǎ=lò      myìn=yâ=bà=dè.  
 NMLZ-close-sense=typically=AUX.situ=VS.RLS=like      see=AUX.inev=PLT=VS.RLS

「非同質的な社会を生きる人々は、閉鎖的であるように見える。」

「はじめに」の例 B)の翻訳の際に述べたように「ように思う」は直接ビルマ語にすることは難しい。基本的には、例(14)のように-tǎlò「ようだ」あるいは例(15)のように-lò thìn「と思う」を使う。ビルマ語の場合「ようだ」または「と思う」を使うだけで話し手の認識が不確かなものであることが伝わる。不確かさをより際立たせたい場合は例(17)のように-lò が重なった形の-tǎlòlò（「かのように／ほぼ...ように」の意味）を使う。-tǎlòにもう一つの-lòを重ねることによって、認識の不確かさが増す。

ただし、-tǎlò は知覚動詞と感情動詞に助動詞-yâ（「不可避／当為」を表す）が付いた形の「myìn=yâ（見える）、tcá=yâ（聞こえる）、thìn=yâ（思える）、khànzá=yâ（感じとる）」のような動詞や-mí（「不注意」を表す）が付いた形の「myìn=mí（見える）、tcá=mí（聞こえる）thìn=mí（思われる）khànzá=mí（感じられる）」のような動詞とともに使うことができる（例(16) (18) (20)）。このような場合は、ビルマ語では、認識が不確かなものであることを表すのは-tǎlò であり、-yâ や-mí が付いた動詞の部分は話し手の意見・感想を表す。

7. 例 12～例 15 の分析：「ように」が類似・比喩を表す場合

例 12～例 15 は、⑤「類似・比喩」の場合である。「A ように B」は、A と B の間に類似性があることを表す。類似しているものを示すので、比喩（特に「～かのように」の場合）、あるいは例示（特に「～のように」の場合）の意味を持つこともある。前田（2006）の 4 用法のうち、「類似事態を表す用法」〈Appearance Similarity〉にあたる<sup>4</sup>。

ビルマ語では、「類似・比喩」を表す名詞後置詞（nànpyi?sí）として -lò や pòun<sup>5</sup> などがある。-lò や pòun にはそれぞれ類語があり、置き換え可能な場合もある。例えば例 14 の場合、翻訳文の例(24)～(26)で見られるように -tǎlò 「ように」は pòun(zàn) 「様子」や -ʔátáin 「とおりに」に置き換えて表現することができる。

〈例 12 「うそだ」とびっくりしたように言った。〉 《様態の類似》

(21) “mǎ-p<sup>h</sup>yiʔ=nàin=bú”                      shò=bí                      ʔânʔó=dwá=dê=pòun=nê  
 “not-become=AUX.pos=VS.NEG”    say=CNSQ    amaze=AUX.cc=AC.RLS=shape=INS  
 pyó=laiʔ=tè.  
 say=AUX.dcsv=VS.RLS

「不可能だ」と驚いた様子で言った。」

例 12 は「不可能だ」と言った際の驚いた様子を表している。前田（2006: 2）の主節に対して修飾・付加的に従属し、主節事態の様々な様子、様態を表す場合である。

〈例 13 飛ぶように売れていった。〉 《比喩》

(22) ??lwĩnpyàn=gòun=dǎ=lò                      ʔǎlùn    yáun=yâ=dê  
 fly=run.out=VS.RLS=like                      very    sell=AUX.inev=VS.RLS

「飛ぶように売れた。」

例 13 のような比喩的な内容の文章はそれぞれの言語の文化背景によって表現が異なる場合が多く、形式を重視して翻訳することは難しい。そのため、例(23)のように形

式的に似たビルマ語の文に替える。

《例 13 と同じ形式の例》

(23) lèbyìN=hmà s<sup>h</sup>ìN t̥wá=dǎ=lò t<sup>h</sup>ìncá=dè. 《例 13 と同じ形式の例》  
 field=LOC elephant go=VS.RLS=like clear=VS.RLS

「田んぼで象が走っているように（／象が田んぼを横切るように）明らかである。」

例(23)は従属節の-t̥ǎlòが主節事態の様態を比喩的に表現している。このような比喩を表す文について、前田（2006: 3）は「明らかに事実と異なる事態をとりあげて、主節事態の様子・事態を修飾する場合がある。比喩の場合は、「～かのように」や「～でも～ように」となることもある」と述べている。

〈例 14 大怪我だったのに、何事もなかったかのように、一人で歩いて帰った。〉

《比喩》

(24) dànyà pyíN=dà=dàun bà=hmâ mǎ-p<sup>h</sup>yi?<sup>h</sup>=t̥ǎ=lò=nê  
 wound strong=NC.RLS=even what=EXCL not-occur=VS.RLS=like=INS  
 t̥ǎ-yau?<sup>h</sup>=t<sup>h</sup>é láncau?<sup>h</sup>~pyàn~là=dè.  
 one-CLF=only walk~return~come=VS.RLS

「大怪我だったのに、何事もなかったかのように、一人で歩いて帰った。」

(25) dànyà pyíN=dà=dàun bà=hmâ mǎ-p<sup>h</sup>yi?<sup>h</sup>=tê=pòun(zàN)=nê  
 wound strong=NC.RLS=even what=EXCL not-occur=AC.RLS=shape=INS  
 t̥ǎ-yau?<sup>h</sup>=t<sup>h</sup>é láncau?<sup>h</sup>~pyàn~là=dè.  
 one-CLF=only walk~return~come=VS.RLS

「大怪我だったのに、何事もなかった様子で、一人で歩いて帰った。」

- (26) dànyà pyín=dà=dàun bà=hmâ mǎ-p<sup>hyi</sup>?=tê=?átáin  
wound strong=NC.RLS=even what=EXCL not-occur=AC.RLS=as  
tǎ-yau?<sup>h</sup>é lánéau?<sup>h</sup>pyàn~là=dè.  
one-CLF=only walk~return~come=VS.RLS

「大怪我だったのに、何事もなかったように、一人で歩いて帰った。」

例 14 には 3 通りの訳が出ているが、意味的な違いはない。例(24)は動詞節を使用したもので、例(25)と(26)は名詞化節を使用した表現である。

例(24)は dànyà pyín 「大怪我だった」という事態を bà=hmâ mǎ-p<sup>hyi</sup>? 「何もなかった」という事実と異なる事態に例えている場合である。この場合、例(25)と(26)のように、-tǎlò 「ように」は pòun(zàn) 「様子」や-?átáin 「とおりに」に言い換えることができる。

〈例 15 この調査結果は、次のようにまとめることができます。〉 《同等の類似》

- (27) dì=tùtètǎnâ-yâla?<sup>h</sup>kò dì=lò ?áteínte<sup>h</sup>ou?<sup>h</sup>lò yâ=bà=dè. 〈口語体〉  
this.DET=research-outcome=ACC this.DET=like summarise=CNSQ get=PLT=VS.RLS

「この調査結果は、このようにまとめることができます。」

- (28) ?i=tùtètǎnâ-yâla?<sup>h</sup>kò ?au?pà=?átáin sùzì~p<sup>h</sup>òpyâ=nàin=dì. 〈文語体〉  
this.DET=research-outcome=ACC below=as geather~reveal=AUX.pos=VS.RLS

「この調査結果は、次のとおりにまとめることができます。」

例 15 のような調査結果などの学術的な内容の場合は例(28)のように文語体を使用することもある。特に?au?pà=?átáin 「次のとおりに」は書記言語の表現である。

前田 (2006) ではこのような類似・比喩を表す場合を、全て主節と「ように」節の事態が類似性を持つということに置いて共通することから「類似事態を表す用法」と呼ばれている。

8. 例1～例15のまとめ

本節では以上で述べた内容をまとめてみる。「推定」を表す「ようだ」の場合は -lò あるいは pòun を使う。また、①～⑤のうち、①の「ようになる・ようにする」タイプは、変化を表すときの「ようになる」の場合は -tʷá と -là を使い、「変化の引き起こし」を表すときの「ようにする」の場合は、-ʔàun louʔ 「ようにする」を使う。②の「(～する) ように言う」は -pʰô pyó、③「目的・結果」は -ʔàun を使う。更に、④「(～する/～した) ように思う」の場合は、基本的には、-tʰàlò 「ように」または -lò thìn 「と思う」を使う。⑤「類似・比喩」の場合は「推定」を表すときと同様で -tʰàlò あるいは pòun を使う。

表4: 「ように」の用例まとめ (前田 2022 を改変)

複合的な 述語	① ようになる -tʷá、-là	ようにする -ʔàun louʔ
↓		
引用成分	② (～する) ように言う -pʰô pyó	④ (～する/した) ように思う 同じ表現になりにくい場合がある
修飾成分	③ 目的・結果 -ʔàun または -pʰô	⑤ 類似・比喩 -tʰàlò あるいは pòun
	-ʔàun/-pʰô 系	-tʰàlò 系
	×	○
	日本語「ように」の前に「た」形が接続できるか	
	ビルマ語は時制がないため、該当しない	

以上、本章では、(前田 2006; 2022) に従い、日本語の「ように」にあたるビルマ語表現を整理した。次章からは、「ように」の辞書的意味を確認し、それぞれ -tʰàlò 系と -ʔàun/-pʰô 系に関する文法的補足を試みる。

## II. 「ように」にあたるビルマ語の意味と文法的補足

本章では「ように」のビルマ語の意味・用法について検討する。

まず、辞書的意味を確認する。大野（1995: 604-605）の『日本語ビルマ語辞典』では、「ように」の意味を以下のように3つにわけて記述している<sup>6</sup>。

(i) -yooni 「—ように」 —<sup>၀</sup>လ်/-lò/、—သလ်/-tālò/、—ကဲသ်/-kêđô/、—သကဲသ်/-tākêđô/

(29) 氷のように冷たい

yègè=lò ?ése?=tè.

ice=like cold=VS.RLS

(30) 私が言うようにしてごらん

teǎnò pyó=dǎ=lò lou?=sáN=ø=bà.

1SG.MS say=VS.RLS=like do=AUX.imp=VS.IMP=PLT

(31) 地球はミカンのように丸い

gǎbà-dzí=dǐ lèinmò-dǐ=gêđô lóunwáin=dǐ.

earth-AUG=TOP orange-fruit=like round=VS.RLS

(32) 二人だけで話をしているように話す

hnǎ-yau?=t<sup>h</sup>é zǎgá+pyó=dǎ=gêđô pyó=dǐ.

two-CLF=only language+talk=VS.RLS=like talk=VS.RLS

(ii) -yooni 「—ように」 —<sup>၀</sup>လ်/-bò/、—အေ၀်/-?àun/、—ရ၀်/-yàn/、—အေ၀်၀်/-?átáin/

- (33) 早く来るように言いなさい

ʔǎ-myàN là=bô pyó=ø=bà.

NMLZ-fast come=PURP tell=VS.IMP=PLT

- (34) 遅刻しないように登校しなさい

teáUN+dz<sup>h</sup>èiN hmi=ʔàUN teʔ=ø=pà.

school+time in.time=PURP attend=VS.IMP=PLT

- (35) 眠らないように頑張った

ʔeiʔ+mǎ-pyò=yàN teózá=ḡi

sleep+NEG-melt=PURP try=VS.RLS

- (36) このようにしなさい

dì=ʔátáIN louʔ=ø=pà

this.DET=as do=VS.IMP=PLT

- (iii) -yooni 「—ように」 —ŋeø/-pàzè/

- (37) 元気でありますように

teáNmà=bàzè.

healthy=VS.OPT

例(29)は冷たい状態を氷の冷たさに例えて修飾しているものあり、-lò は「～のように」の意味で使われる「比喩」を表す要素である。(30)の-ṭǎlò は従属節の動詞が示したようにあるいは示した通りだという「～ように」の意味で使われている。例(31)の-kêḡô と(32)の-ḡǎgêḡô はそれぞれ-lò と-ṭǎlò の文語体形式である。日本語の場合、このような主節と対等な様態は「～とおりに」と置き換えることができる(前田 2006: 3)。

ビルマ語にも同様な表現がある。名詞に付く -lò は -ʔátáin (〜のとおりに)、動詞に付く -t̃lò は -t̃é ʔátáin (〜とおりに) に置き換え可能である。例(36)はまさに -ʔátáin (〜とおりに) を用いた文である。これらは、前田 (2006) の 4 用法のうち、主節に対して修飾・付加的に従属し、主節事態の様々な様子、様態を表す場合の「類似事態を表す用法」であり、表 4 の「⑤類似・比喩」にあたる。例(33)は②の「(〜する) ように言う」タイプの「命令・祈願の内容を表す用法」である。例(34)と(35)は「目的」を表す用法であり、表 4 の「③目的・結果」にあたる。直接に祝い・応援のメッセージを贈るときや願い事をするときは、例(37)のように慣用の -pàzè を使う。

以上の例文から (i) は「⑤類似・比喩」 ((36)を含む)、(ii) は「③目的・結果」 ((36)をのぞき)、(iii) は祈願を表していることが分かる。辞書には載っていないが、I章で見てきたように「類似・比喩」を表す「ように」には -lò のほかに pòun などの形式がある。

また、日本語の目的を表す従属節には「ために」の表現もあり、それにあたるビルマ語の意味も確認しておく。大野 (1995: 527) では「ために」を以下のように記述している。

-tameni 「—ために」 အတွက် /-ʔátwɛʔ/

(38) 明日のために、思い患うな

mǎnɛʔpʰàn=ʔátwɛʔ	twé~pù	mǎ-nè=ø=nê.
tomorrow=PURP	think~worry	not-stay=VS.IMP=VS.NEG

-tameni ために အတွက် /-ʔápʰô/、အတွက် /-bô/

(39) 手を洗うために石鹸が必要だ

lɛʔ	sʰé=bô	sʰaʔpyà	lò=dè.
hand	wash=PURP	soap	need=VS.RLS

例(38)と(39)では、「ために」の表現として-ʔätwɛʔと-pʰô を使用しており、以前の目的を表す項目 (ii) で「ように」として使用された-pʰô がここでは「ために」としても使用していることが確認できる。-ʔäpʰô は名詞に付くもので、-pʰô は基本的に動詞に付く。

従って、大野 (1995) を基に「ように」と「ために」の意味を以下表 5 のようにまとめることができる。

表 5 : 大野(1995)における「ように」と「ために」にあたるビルマ語の意味

		口語	基本口語だが、 文語でも使う	文語	
ように	類似・ 比喩	N-lò		N-kêḍô	-ṭälò 系
		V-ṭälò		V-ṭākéḍô	
		N-ʔätáin			
	命令・ 祈願 <sup>7</sup>	V-pàzè			-ʔàun/-pʰô 系
		V-pʰô			
		V-pʰô			
結果・ 目的	V-ʔàun				
	V-yàn				
	N-ʔätwɛʔ				
	ために	N-ʔäpʰô			
		V-pʰô			

「類似・比喩」を表す表現には-ṭälò 系、「結果・目的」を表す表現には“-ʔàun、-pʰô、-ʔätwɛʔ”の 3 形式が使われる。そのうち、「ように」としては-ʔàun/-pʰô 系が使われ、

「ために」としては-ʔätweʔと-pʰô が使われることが分かる。以下では「ように」に対応する-t͡ɕəlò 系と-ʔaun/-pʰô 系の文法的補足を試みる。

### 1. -t͡ɕəlò 系の補足

-t͡ɕəlò 系は基本的に「類似・比喩」を表す。既に A)と I.1 および I.7 で見たように、ビルマ語の「類似・比喩」を表す要素は-lò や pòun などがある<sup>8</sup>。-lò は付属語であり、名詞に後続するときは-lò となり、動詞に後続するときは-t͡ɕəlò (-lò の前に VS.RLS 標識-t͡ɕ を付けた形)あるいは-mälò (-lò の前に VS.IRR 標識-mă を付けた形)となる。また、-lò には-lòlò という重複形があり、重複形にはより認識の確かさを際立たせる効果がある。例えば、-t͡ɕəlò は「よう」の意味を表し、-t͡ɕəlòlò は「かのよう／ほぼ...よう」の意味を表す。pòun は「姿・形・様子」という意味を持つ自立語である。また、-lò は口語体の形式であり、文語体の-kêḍô と対応する。

〈「類似・比喩」を表す要素が名詞に後続する場合〉

(40) myauʔ=lò sʰô=dè. 〈口語体〉 / myauʔ=kêḍô sʰô=dì. 〈文語体〉

monkey=like mischief=VS.RLS / monkey=like mischief=VS.RLS

「猿のようにやんちゃである (／猿のようにいたずらが好き)。」

〈「類似・比喩」を表す要素が動詞に後続する場合〉

(41) mǎnêgâ mó+ywà=dǎ=lò=bé. / mǎnêgâ mó+ywà=dê=pòun=bé.

yesterday rain+fall=VS.RLS=like=DM.foc / yesterday rain+fall=AC.RLS=shape=DM.foc

「昨日は雨が降ったようだ。」

(42) mǎnêgâ mó+mǎ-ywà=dǎ=lòlò=bé.

yesterday rain+not-fall=VS.RLS=rather.like=DM.foc

「昨日は雨が降ったようだ。」 ((41)に比べ、より認識が曖昧)

- (43) mǎnɛʔpʰàn mó+ywà=mǎ=lò=bé. / mǎnɛʔpʰàn mó+ywà=mǎ=lò=bé.  
 tomorrow rain+fall=VS.IRR=like=DM.foc / tomorrow rain+fall=VS.IRR=like=DM.foc  
 「明日は雨が降るようだ。」

- (44) mǎnɛʔpʰàn mó+ywà=mǎ=lòlò=bé.  
 tomorrow rain+fall=VS.IRR=rather.like=DM.foc  
 「明日は雨が降るようだ。」 ((43)に比べ、より認識が曖昧)

また、「同等の類似」を表す従属節の-tǎ̀lò は、「並列」を表す接続助詞としても使われる。従属節 A と主節 B の事態・事柄を対比し、“A-tǎ̀lò B-lé”のパターンで現れることが多い。文脈によっては、「A もあれば B」(例(45))、「A (する) 一方で B (する)」(46(a))などの意味になることがあるが、順接の場合は「A し、B も」の意味によく似ている。

- (45) ʔǎ-káun-dzí mǎ-houʔ=tǎ̀lò ʔǎ-sʰó-dzí=lé mǎ-houʔ=pʰú.  
 NMLZ-good-AUG not-true=VS.RLS=like NMLZ-bad-AUG=also not-true=VS.NEG  
 「よいことでもないし、悪いことでもない。(／よくもなければ、悪くもない。)」

- (46) (a) tǎ̀tɛ̀ô=dwè=gâ nènàin=lún=dzâ=dǎ̀lò tǎ̀tɛ̀ô=dwè=teádô=lé  
 some=PL=NOM unconcern=AUX.exc=AUX.mut=VS.RLS=like some=PL=DM.cntr=also  
 kòdzósûn=lún=dzâ=dè.  
 self.sacrifice=AUX.exc=AUX.mut=VS.RLS  
 「ある人はよくも無関心でいられるが、(一方で) ある人はあまりにも自己犠牲を払う。」

- (b) tǎ̀tɛ̀ô=dwè=gâ nènàin=lún=dzâ=dǎ̀lauʔ  
 some=PL=NOM unconcern=AUX.exc=AUX.mut=VS.RLS=as.much

tăte<sup>h</sup>ô=dwè=teâdô=lé      kòdzósûN=lúN=dzâ=dè.

some=PL=DM.cnt=also      self.sacrifice=AUX.exc=AUX.mut=VS.RLS

「ある人がよくも無関心でいられるほど（／わりに）、ある人はあまりにも自己犠牲を払う。」

例(45)と(46)は従属節と主節が反対の意味を持っている並列文である。例(45)は否定の並列であり、(46) (a)は A の主語と B の主語が違う場合の反対の意味を持つ並列である。この(46) (a)のような反対の意味を持つ文の場合は(46) (b)のように -tǎ=lau? 「～ほど」に言い換えることができる。

次の例(47)～例(52)は、並列を表す -tǎlò が日本語の「し」に似ている場合である。並列の「し」について、前田（2022: 182）は、二つの対等な事柄（同様な内容）を並べたことを「並列」と言う。並列の言い方としてよく使われるのは、「て」形や「「ます」形」（連用中止形）であると述べた上、「し」は単に二つのことを並列するのではなく、並列した二つのことが「いちばん言いたいこと（主張）」の「根拠・理由」となる場合によく使われるとされる。この説明はビルマ語にも有効である。ビルマ語も単なる並列の場合は順接を表す -pí/-bí（～て）を用いる。しかし、-tǎlò が表す並列は、日本語の「し」によく似ている。例(48)の翻訳文で見られるように原因・理由を表す -lô によって発話者・筆者の主張が表面化される場合もある。日本語の文と同様に dǎ-ba? tǎ-k<sup>h</sup>à là=byi?tè（週に一度店に来る）の理由として zé+tɛ?tǎ（安い）と sá=lô káun（おいしい）が並列になっている。

(47) 佐藤先生は、授業はおもしろいし、学生にも親切です。（前田 2022: 182）

sǎyà-shâtó=gâ      sǎt̃in-káun=dǎ=lô      teáunǎ=dwè=?ǎpò=lé

teacher-NAME=TOP    teaching-good=VS.RLS=like    student=PL=upon=also

gǎyûnà+t<sup>h</sup>á=dè.

compassion+put=VS.RLS

「佐藤先生は、教え方も上手だし、学生にも親切です。」

- (48) このラーメンは安いし、おいしいし、週に一度は食べに来ます。(前田 2022: 182)

dì=s<sup>h</sup>àin=gâ                      k<sup>h</sup>auʔs<sup>h</sup>wé=gâ      zé+ʔɛʔt̚à=ǰǎ=lò                      sá=lò=lé  
 this.DET=shop=LOC      noodle=TOP      price+cheap=VS.RLS=like      eat=CNSQ=also  
 káun=lò              dǎ-baʔ              tǎk<sup>h</sup>à=dô                      là~sá=byiʔ=tè.  
 good=CAUS      one-week      one-time=DM.cntr      come~eat=become=VS.RLS

「このラーメンは安いし、おいしいので、週に一度は食べに来ます。」

- (49) このラーメンは値段が安いし、味もいいです。(前田 2022: 182 一部改変)

dì=s<sup>h</sup>àin=gâ                      k<sup>h</sup>auʔs<sup>h</sup>wé=gâ      zé+ʔɛʔt̚à=ǰǎ=lò                      ʔǎyâǰà=lé káun=dè.  
 this.DET=shop=LOC      noodle=TOP      price+cheap=VS.RLS=like      taste=also      good=VS.RLS

「このラーメンは値段が安いし、味もいいです。」

- (50) ʔù=dò=yê              pyâzaʔ=kâ              pyinǰàǰápà=ǰǎ=lò                      yì=lé  
 3SG=PL=GEN      drama=TOP      ingenious=VS.RLS=like      laugh=also  
 yì=yâ=dè.  
 laugh=AUX.inev=VS.RLS

「彼らの劇は巧妙だし、笑えることもある。(／彼らの劇は巧妙で、面白い。)」

- (51) ʔǎyán      ʔána=yâ=ǰǎ=lò                      teézú=dwè=lé                      ʔǎt<sup>h</sup>aʔt<sup>h</sup>aʔ  
 very      sorry=AUX.inev=VS.RLS=like      gratitude=PL=also      exceeding  
 t̚in=yâ=bà=dè.  
 place.on=AUX.inev=PLT=vs.RLS

「非常に恐縮だし、感謝の気持ちもいっぱいです。(／非常に恐縮すると共に、重ね重ね感謝しております。)」

- (52) lùnè=dwè=yè              ʔǎtwé=gâ              k<sup>h</sup>iʔ-t̚iʔ=kò                      p<sup>h</sup>ántí=laiʔ=ǰǎ=lò  
 youth=PL=GEN      thought=NOM      era-new=ACC      creat=AUX.dcsv=VS.RLS=like

kiʔ-teí=gâ=lé      lùŋè=dwè=yê      ʔătwé=gò      pòmò      yîŋtàn=ʔàun  
 era-AUG=NOM=**also**      youth=PL=GEN      thought=ACC      more      mature=PURP  
 pyóthàun=bé=nè=bà=dè.  
 cultivate=AUX.rep=AUX.situ=PLT=VS.RLS

「若者の思考が新しい時代を創るし、時代も若者の思考をより成熟するように育ててあげる。」

このような「類似」の-tǎlò が対比を表すタイプは、前田（2006）の類似事態を表す用法のうち、それぞれ従属節と主節内の二つの事象が等しく成立する場合の「同等」を表す「ように」と同様の意味を示しており、ビルマ語では「並列」用法としても解釈できるということである。このように解釈できることは、「並列」の-tǎlò は類似事態を表す用法の「同等」から派生したものであるからと考えられる。前田（2006: 24）は、「同等」について「典型的な形式的な特徴としては、主節に累加を表す「も」が表れる。これによって、前件と後件の二つの事象が対等に比較されるものであることが明確になる」と述べている。

(53) 人に生命があるように、植物にも生命がある。（前田 2006: 24）      《同等》

lù=dwè=hmà      ʔăteʔ eí=dǎ=lò      ʔăpìn=dwè=hmà=lé      ʔăteʔ eí=dè.  
 human=PL=LOC      life      exist=VS.RLS=**like**      plant=PL=LOC=**also**      life      exist=VS.RLS

「人に生命があるように、植物にもも生命がある。」

⇒「人に生命があるし、植物にもも生命がある。」

以上、例(47)～(53)での並列の表す接続助詞-tǎlò は文脈によっては日本語訳が一定しないときがあるが、ビルマ語はすべての例において従属節 A と主節 B の事態が-tǎlò によって対比されていることがわかる。

## 2. -ʔàun/-pʰô 系の補足

-ʔàun/-pʰô 系は何らかの利益・結果を期待する場合に用いられ、「～なるよう／～するよう」の意味を持つ。-ʔàun と -pʰô の違いについては第 III 章で検討することにし、本節では特に -ʔàun の文法的補足を試みる。

-ʔàun は前に来る動詞の状態によって、さまざまな解釈ができる。-ʔàun の前に一定の時間を継続する状態を表す動詞が来る場合は副詞節として解釈することができる。この場合文語体の副詞化接尾辞 -swà/-zwà に置き換えが可能である。

(54)  $teánmà=ʔàun$      $nè=ø=bà.$                      $\Rightarrow$   $teánmà=zwà$      $nè=ø=bà.$   
 healthy=PURP    stay=VS.IMP=PLT                     $\Rightarrow$  healthy=ADV    stay=VS.IMP=PLT  
 「お元気で！」

(55)  $pyò=ʔàun$      $nè=ø=bà.$                      $\Rightarrow$   $pyò\epsilon wìn=zwà$      $nè=ø=bà.$   
 happy=PURP    stay=VS.IMP=PLT                     $\Rightarrow$  happy=ADV    stay=VS.IMP=PLT  
 「楽しくしてください！」

-ʔàun の前に瞬間的な状態を表す動詞が来る場合は「程度」を示す。例(56)で示したように -ʔàun は「～ほど」の意味を持ち、V-ʔàun は ʔǎ-V に言い換えることができる。例(56)で分かるように -ʔàun は「類似・比喩」を表すことはできない。「類似・比喩」を表す場合は例(57)に示したように ʔátáin や -lò を用いる。

(56)  $t̚è=ʔàun$      $ʔeiʔ=t̚è.$                      $\Rightarrow$   $ʔǎ-t̚è$      $ʔeiʔ=t̚è.$   
 die=PURP    sleep=vs.RLS                     $\Rightarrow$  NMLZ-die    sleep=vs.RLS  
 「死ぬほど寝る。」                     $\Rightarrow$  「めっちゃ寝る。」

(57)  $t̚è=d̚è=ʔátáin$      $ʔeiʔ=nè=d̚è.$  《類似》    /     $ʔǎt̚ègàun=lò$      $ʔeiʔ=nè=d̚è.$  《比喩》  
 die=AC.RLS=as    sleep=AUX.situ=vs.RLS    /    dead.body=like    sleep=AUX.situ=vs.RLS

「死んだように寝ている。」                    / 「遺体のように寝ている。」

また、-ʔàunは次のように「限度」を表す場合がある。このような場合、-ʔàunの前には終結点がある達成動詞または到達動詞が来る。例(58)(a)の-ʔàunは例(58)(b)と(58)(c)のように-ʔáthí「～まで／までに」に置き換えすることができる。

(58) (a) sʰóun=ʔàun      teí=bé=dê=ʔátwɛʔ                    teézú+tìn=bà=dè.  
           finish=PURP      look=AUX.rep=AC.RLS=for      gratitude+place.on=PLT=vs.RLS

「最後まで見てくれてありがとうございました。」

(b) ʔǎ-sʰóun=(ʔǎ)thí      teí=bé=dê=ʔátwɛʔ                    teézú+tìn=bà=dè.  
           NMLZ-finish=TER      look=AUX.rep=AC.RLS=for      gratitude+place.on=PLT=vs.RLS

「最後まで見てくれてありがとうございました。」

(c) sʰóun=dê=ʔáthí      teí=bé=dê=ʔátwɛʔ                    teézú+tìn=bà=dè.  
           finish=AC.RLS=TER      look=AUX.rep=AC.RLS=for      gratitude+place.on=PLT=vs.RLS

「最後まで見てくれてありがとうございました。」

以下例(59)も終結点を表す場合である。叙想法の動詞標識-mè を使って強い意識を示すことができる。V-ʔàunはʔǎ-VまたはV-dê=ʔáthí(=ʔàun)に言い換えることができる。

(59) (a) kòun=ʔàun/ ʔǎ-kòun      sá=mè.      ⇒ kòun=dê=ʔáthí(=ʔàun)      sá=mè  
           run.out=PURP/NMLZ-run.outeat=VS.IRR      ⇒ run.out=AC.RLS=TER(=PURP)      eat=VS.IRR

「尽きるまで食べる／全部食べる（ぞ！／ぜ！）」

(b) pí=ʔàun/ ʔǎ-pí      yé=mè.      ⇒ pí=dê=ʔáthí(=ʔàun)      yé=mè.  
           finish=PURP/NMLZ-finish      write=VS.IRR      ⇒ finish=AC.RLS=TER(=PURP)      write=VS.IRR

「終わるまで書く／最後まで書き終わらせる（ぞ！／ぜ！）」

(c) wâ=ʔàun/ ʔă-wâ      sá=mè.      ⇒ wâ=dê=ʔăthí(=ʔàun)      sá=mè.  
 full=PURP/NMLZ-full      eat=VS.IRR      ⇒ full=AC.RLS=TER(=PURP)      eat=VS.IRR

「いっぱいになるまで食べる／満腹するまで食べる（ぞ！／ぜ！）」

(d) yauʔ=ʔàun/ ʔă-yauʔ      ʔwá=mè.      ⇒ yauʔ=dê=ʔăthí(=ʔàun)      ʔwá=mè.  
 reach=PURP/NMLZ-reach      go=VS.IRR      ⇒ reach=AC.RLS=TER(=PURP)      go=VS.IRR

「到着するまで行く（／行こう）。」 ⇒ 「ぜひ・必ず行く（ぞ！／ぜ！）」

(e) kwé=ʔàun/ ʔă-kwé      khwé=mè.      ⇒ kwé=dê=ʔăthí(=ʔàun)      khwé=mè.  
 broken=PURP/NMLZ-broken      break=VS.IRR ⇒ broken=AC.RLS=TER(=PURP)      break=VS.IRR

「割れるまで割る／徹底的に割る（ぞ！／ぜ！）」

(f) pyaʔ=ʔàun/ ʔă-pyaʔ      phyaʔ=mè.      ⇒ pyaʔ=tê=ʔăthí(=ʔàun)      phyaʔ=mè.  
 cut.off=PURP/NMLZ-cut.off      cut=VS.IRR ⇒ cut.off=AC.RLS=TER(=PURP)      cut=VS.IRR

「切れるまで切る／完全に切る（ぞ！／ぜ！）」

(g) ʔè=ʔàun/ ʔă-ʔè      ʔaʔ=mè.      ⇒ ʔè=dê=ʔăthí(=ʔàun)      ʔaʔ=mè.  
 die=PURP/NMLZ-die      kill=VS.IRR      ⇒ die=AC.RLS=TER(=PURP)      kill=VS.IRR

「死ぬまで殺す／（強い殺意で）殺す（ぞ！／ぜ！）」

(h) nàiN=ʔàun/ ʔă-nàiN      taiʔ=mè.      ⇒ nàiN=dê=ʔăthí(=ʔàun)      taiʔ=mè.  
 win=PURP/NMLZ-win      attack=VS.IRR ⇒ win=AC.RLS=TER(=PURP)      attack=VS.IRR

「勝つまで戦う／（強い意志で）勝つまで戦う（ぞ！／ぜ！）」

また I.3 では、変化の引き起こしを表す「ようにする」の場合に  $-ʔàun\ louʔ$  が使われ、 $-ʔàun$  の前が変化後の状態を表すことについて述べた。厳密には  $-ʔàun\ thá$  (なるようにしておく) も「ようにする」の意味になることがある。特に、 $-ʔàun$  の前に  $pouʔ$  (腐る) や  $te^{hau}ʔ$  (乾く) のような変化を表す状態動詞が来る場合、 $-ʔàun$  の後ろには状態の継続を表す  $thá$  (おく) が用いられる。また、変化を表す状態動詞も終結点を表す動詞であるため、「限度」を表す「まで／までに」の意味を持っている。このように終結点がある動詞は終結までの過程・継続状態があり、 $-ʔàun\ thá$  はその終結の状態になるまで、すなわち変化後の状態になるまで置かれることである。それに対し、終結点を表す動詞に  $-ʔàun\ louʔ$  を使う場合は何らかの手を加えてイレギュラーで変化させることになる。 $-ʔàun\ louʔ$  は例(63)のように  $-ʔàun$  の前が  $káun$  (良い) や  $shó$  (悪い) のような状態が一定期間継続する事態が来る場合に使うことが多い。

(60)  $pouʔ=ʔàun/ ʔǎ-pouʔ$        $thá=dè.$        $\Rightarrow ʔǎ-pouʔ$        $k^{hàn}(=thá)=dè.$   
 decay=PURP/ NMLZ-decay    put=VS.RLS       $\Rightarrow$  NMLZ-decay    receive(=AUX.situ)=VS.RLS  
 「腐るように (／まで) 置いておく。」  $\Rightarrow$  「腐らせる」

(61)  $te^{hau}ʔ=ʔàun/ ʔǎ-te^{hau}ʔ$        $thá=dè.$        $\Rightarrow ʔǎ-te^{hau}ʔ$        $k^{hàn}(=thá)=dè.$   
 dry=PURP/ NMLZ-dry      put=VS.RLS       $\Rightarrow$  NMLZ-dry      receive(=AUX.situ)=VS.RLS  
 「乾くように (／まで) 置いとく。」  $\Rightarrow$  「乾かす」

(62)  $ʔé=ʔàun/ ʔǎ-ʔé$        $thá=dè.$        $\Rightarrow ʔǎ-ʔé$        $k^{hàn}(=thá)=dè.$   
 cool=PURP/ NMLZ-cool    put=VS.RLS       $\Rightarrow$  NMLZ-cool    receive(=AUX.situ)=VS.RLS  
 「冷えるように (／まで) 置いとく。」  $\Rightarrow$  「冷やす」

(63) (a)  $káun=ʔàun$      $louʔ=tè.$       (b)  $shó=ʔàun\ louʔ=tè.$   
 good=PURP    do=VS.RLS      bad=PURP    do=VS.RLS  
 「良くなるようにする。／改善する。」 「悪くなるようにする。／悪化させる。」

### III. -ʔàun と -bô の違い

-ʔàun/-bô 系は何らかの利益・結果を期待する場合に用いられ、「～なるよう／～するよう」の意味を持つ。-ʔàun/-p<sup>h</sup>ô 系には「命令・祈願」を表す用法と「目的・結果」を表す用法がある。本章では主に目的・結果を表すときの-ʔàun と -p<sup>h</sup>ô について考察する。

ビルマ語では目的を表す「ように」として-ʔàun または-p<sup>h</sup>ô が使われる（参照：C）翻訳 C-1 と C-2）。I.5 で見てきたように、結果・目的を表す-ʔàun は日本語の結果・目的を表す「ように」の性質を持っており、-ʔàun の前に来る述語は「ように」と同様に「主節動作主が意志的にコントロールできない事態が来る（前田 2006: 3）」。それに対し、-p<sup>h</sup>ô の前に来る述語は動作主が意志的に行った事態が来ることが可能である。

また、-ʔàun と -p<sup>h</sup>ô は基本的には口語体の形式であり、文語体の-yàn と対応する（表 5 を参照）。しかし、-ʔàun が異主体の動作など、主節動作主が意志的にコントロールできない事態を表す場合は-yàn の前に使役要素の-sè/-zè 「（非意志的に）なってくるようにさせる」を付ける必要がある。

そのため、以下の例(64)と(66)のような主節の動作主が確認できない場合は-ʔàun と -p<sup>h</sup>ô の意味を区別することが難しい。例(65)と(67)の文語体の場合も、-yàn と -sèyàn (/sèbô) 両方が容認可能になる。例(64)と(66)の場合の-p<sup>h</sup>ô は-yâ=ʔàun 「できるように」に言い換えることができる。

(64) ʔămyá    ʔí=ʔàun/bô    teèná=dè.    〈口語体〉

public    know=PURP    announce=VS.RLS

「みんなが知るように（／ために）公開する。」

(65) ʔămyá    ʔí=yàn/zèyàn(/zèbô)    teèná=dì.    〈文語体〉

public    know=PURP    announce=VS.RLS

「みんなが知るように（／ために）公開する。」

(66) pyaʔtǎnà mǎ-pʰyiʔ=ʔàun/pʰô tǐkʰàn=yâ=mè. 〈口語体〉

problem not-become=PURP patient=AUX.inev=VS.IRR

「問題にならないように（／ために）我慢しなければならない。」

(67) pyaʔtǎnà mǎ-pʰyiʔ=yàn/sèyàn(/sèbô) tǐkʰàn=yâ=myì. 〈文語体〉

problem not-become=PURP patient=AUX.inev=VS.IRR

「問題にならないように（／ために）我慢しなければならない。」

次に、命令・祈願など発話に用いられる-pʰô が意志的に行う動作の場合に使われることについて考察する。

(68) foun peiʔ=tʰá=bé=bô/\*ʔàun myiʔtà+yaʔkʰàn=ʔaʔ=pà=dè. 〈口語体〉

phone off=AUX.situ=AUX.rep=PURP kindness+request=AUX.defer=PLT=VS.RLS

「電話（の電源）を切っておくよう（に）お願いいたします。」

(69) foun peiʔ=tʰá=bé=bà=yàn/\*zèyàn myiʔtà+yaʔkʰàn=ʔaʔ=pà=ǰì. 〈文語体〉

phone off=AUX.situ=AUX.rep=PLT=PURP kindness+request=AUX.defer=PLT=VS.RLS

「電話（の電源）を切っておくよう（に）お願いいたします。」

例(68)は-pʰô の前が「電源を切るように」という命令の内容になっており、peiʔ（切る）は意志的な動作であることが確認できる。-yàn を使った例(69)は例(68)の文語体形式である。このように前に命令内容が入るタイプの-yàn は例(70)のように忠告・注意の箇条書きなどによく用いられる。

(70) lɛʔ+sʰé=yàn hnǎkʰáunzí taʔ=yàn bǎdínbauʔ pʰwîn=yàn

hand+wash=PURP mask attach=PURP window open=PURP

「手洗いすること」 「マスクを付けること」 「窓を開けること」

しかし、次の例(71)のような従属節の命令内容が否定の場合は、-p<sup>h</sup>ô も-ʔàun も使える。

- (71) mǎ-pyó=bô/ʔàun tá=dè.  
 not-say=PURP prevent=VS.RLS  
 「言わないように注意する。」

また、-p<sup>h</sup>ô には-p<sup>h</sup>ô louʔ 「しようとする」のように、何かを意志的に行おうとする意味がある。

- (72) (teǎnò) pyàn=bô/\*ʔàun louʔ=nè=dè.  
 (1SG.M) return=PURP do=AUX.situ=VS.RLS  
 「(私は) 帰ろうとしている。／帰る準備をしている。」

- (73) (teǎnò) pyàn=bô/\*ʔàun sínzá=nè=dè.  
 (1SG.M) return=PURP think=AUX.situ=VS.RLS  
 「(私は) 帰ろうと考えている。／帰ることを考えている。」

例(72)と(73)で見たように動作主が意志的に帰ろうとする場合、つまり、同主体の場合は、-p<sup>h</sup>ô が使われ、-ʔàun は非文法的である。それに対し、例(74)と(75)のように主節の主体が動作主でない・異主体の場合は、-ʔàun が使われ、-p<sup>h</sup>ô は非文法的になる。例(74)は話し手以外の人(主体1)が話し手(主体2)に帰るようにさせる場合である。例(75)は困るの主体は三人称で、困らせようとするのは二人称側である。いずれも、I.3 の変化の引き起こしを表す-ʔàun louʔ 「ようにする」の場合である。

- (74) (tù) teǎnô=gò pyàn=ʔàun/\*bô louʔ=tè.  
 (3SG) 1SG.M.OBL=ACC return=PURP do=VS.RLS

「(彼は)私を帰らせようとしている。」

(75) ɰüdübá      dou?k<sup>h</sup>â+yau?=?àun/\*p<sup>h</sup>ô      mǎ-lou?=?tɛ<sup>h</sup>in=bà=nê  
 others      trouble+fall=PURP      not-do=AUX.des=PLT=VS.PROH

「人を困るようにしないでください。(／困らせないでください。)」

更に、以下の例(76)~(78)で見られるように、「結果・目的」を表す-p<sup>h</sup>ô は「ために」の意味でも使われるが、-?àun は使えない。

(76) sci?kú=nê      lɛ?twê      tǎt<sup>h</sup>a?t<sup>h</sup>éteâ=?àun      lou?=?p<sup>h</sup>ô/\*?àun      ʔinmătàn  
 dream=COM      reality      fit=PURP      do=PURP      very

k<sup>h</sup>éyín=hlâ=dè.

difficult=AUX.comp=VS.RLS

「理想と現実を一致するようにするために(／すること)は非常に困難だ。(／理想と現実を一致させることは非常に困難だ。)」

(77) sci?kú=nê      lɛ?twê      tǎt<sup>h</sup>a?t<sup>h</sup>éteâ=bô/\*?àun      ʔinmătàn      k<sup>h</sup>éyín=dè.  
 dream=COM      reality      fit=PURP      very      difficult=VS.RLS

「理想と現実が一致するためには非常に困難だ。(／理想と現実が一致すること(／を一致させること)は非常に困難だ。)」

(78) teǎnò      tɛ?kǎdò      wìngwîn-sàmébwé      p<sup>h</sup>ès<sup>h</sup>ò=bô/\*?àun      eaw?t<sup>h</sup>á~pí=bì.  
 1SG.M      university      entrance-exam      answer=PURP      apply~finish=VS.INC

「私は大学の入学試験を受けるために／\*ように申し込んだ。」

以下の例(79)と(80)はそれぞれ(77)と(78)の文語体形式である。

(79) sci?kú=hnîn      lɛ?twê      tǎt<sup>h</sup>a?t<sup>h</sup>éteâ=yàn/\*zèyàn(/\*zèbò)      ʔinmătàn      k<sup>h</sup>éyín=dì.  
 dream=COM      reality      fit=PURP      very      difficult=VS.RLS

「理想と現実が一致するためには非常に困難だ。（／理想と現実が一致すること（／を一致させること）は非常に困難だ。）」

(80) teǎnò      tɛʔkǎdò      wìngwìn-sámébwé      pʰèsʰò=yàn/\*zèyàn(/\*zèbò)  
 1SG.M    university    entrance-exam      answer=PURP  
 cauʔtʰá~pí      pʰyiʔ=ǰi.  
 apply~finish    become=VS.RLS

「私は大学の入学試験を受けるために／\*ように申し込んだ。」

#### IV. おわりに

本稿では日本語の前田（2006、2022）を基に「ように」にあたるビルマ語表現を確認し、「ように」を-tǎlò系と-ʔàun/-pʰò系に整理した。また、それぞれ-tǎlò系と-ʔàun/-pʰò系の文法的補足に加え、-ʔàunと-pʰòの違いについても考察を行った。その際、必要に応じて一部の用例には文語体との対照を示した。ビルマ語には発話に用いられる口語体と、書記に用いられる文語体とがあり、特に助詞類の形式が著しく異なる。実用場面においては、両者の間に明確な区別があるわけではなく、口頭言語であっても演説などはかなり文語的な調子を帯びるものがあり、書記の際にも主張の度合いを和らげるような場面など口語体の使用が見られる。しかしながら、これまでのビルマ語研究においては、口語体が主な対象となり、文語体の記述は極めて少ない。本稿では、この課題に取り組むべく、文語体の表現を含めて考察を試みた。

しかし、今回は「ように」を中心としたため、ビルマ語の「結果・目的」を表す用法を包括的に考察することができなかった。本稿で確認できた口語体の「目的・結果」を表す表現には-ʔǎtweʔ「～のため(38)」、-ʔàun「～ように(34)」、-pʰò「～ように(33)／～ために(39)」などがある。-ʔǎtweʔは名詞に後続するものであり、動詞に接続する場合は、-pʰò(=lò)=ʔǎtweʔという形で、-pʰòとともに現れることがある（C）翻訳 C-1）。一方、-ʔàunは-lòとともに現れる傾向がある（C）翻訳 C-2）。今後は-ʔǎtweʔを含めた研

究を行い、ビルマ語の目的・結果を表す表現の全体像を明らかにしたい。

## 注

<sup>1</sup>厳密に言えば、-tālò と -mālò に変わる。前者は「現在・過去・習慣」を表すときに使う叙実法であり、後者は「未来・推量」を表すときに使う叙想法である。

<sup>2</sup>原注（岡野 2003）：ビルマ語の状態を表す動詞のほとんどは、それだけで状態の変化をも表す。

<sup>3</sup>kháin は本動詞のときは「用事を言いつける、仕事をさせる」という意味を持ち、助動詞のときは「～させる、～するように言う」という意味を持つ。

<sup>4</sup>前田（2006: 11-36）では、類似事態を表す「ように」の用法は「様態」「比喩」「同等」の3つに下位分類し、次のように類型化されている。

〈前節の述語が活用語の場合〉

《様態》「A するように B する」＝類似した事態 A が事態 B を修飾する

《比喩》「A するように B する」＝架空の事態 A によって事態 B をたとえる

《同等》「X が A するように、Y も B する。」＝前件事態と後件事態が同じであることを示す。

類似事態用法に「名詞+の+ように」が「様態」「比喩」「同等」を表す場合もある。

<sup>5</sup>ビルマ語の「例示・比喩」を表す要素は“-lò”“pòun”のほかは“-kêṭô”“-pʰwè”、“-hnè”“-hàn”“-pāmà”“-ʔá lá”“-ʔáṭwin”“-ḍāḍàn”などそれぞれ類語がある。いずれも、名詞後置詞として使う。動詞に接続する場合は、付属語のときは動詞標識を使用し、自立語は名詞化の手続きをする。

<sup>6</sup>原文の記述はローマ字、日本語、ビルマ語を使用しており、音韻表記や逐語訳などは筆者によるものである。書式なども本稿の方式に合わせてある。

<sup>7</sup>-pázè は直接に祝い・応援のメッセージを贈るときや願い事をするときに使用する慣用表現であり、前田（2006）による「命令・祈願を表す用法」の場合は-ʔàun/-pʰô 系が使われる。

<sup>8</sup>それぞれ類語も存在するが、その都度触れることとする。

## 略号一覧

⇒ 置き換え可能／＝ 統語レベル境界／- 形態レベル境界／+ NV 型動詞境界／～ 動詞連続境界／∅ ゼロ形態素／1SG 一人称単数／3SG 三人称単数／AC 限定節標識／AC.IRR 限定節標識、叙想法／AC.RLS 限定節標識、叙実法／ACC 対格助詞／ADV 副詞化接尾辞／AUG 指大辞／AUX 助動詞／AUX.caus 助動詞、使役的／AUX.cc 助動詞、変化の完了／AUX.comp 助動詞、比較／AUX.dcsv 助動詞、決定的／AUX.def 助動詞、確定的／AUX.defer 助動詞、敬意／AUX.des 助動詞、願望／AUX.emp 助動詞、経験／AUX.exc 助動詞、過剰／AUX.imp 助動詞、命令／AUX.inev 助動詞、不可避・当為／AUX.mut 助動詞、相互／AUX.pc 助動詞、変化の過程／AUX.pos 助動詞、可能性／AUX.rep 助動詞、代表的

／AUX.skill 助動詞、熟練／AUX.situ 助動詞、状況的／AUX.uncons 助動詞、無意識／  
CAUS 理由節標識／CLF 助数詞／CNSQ 結果節標識/単純接続／COM 共格助詞／COND 条件  
節標識／DET 限定詞／DM 談話標識／DM.cntr 談話標識、対比／DM.foc 談話標識、焦点  
／EXCL 除外格助詞／GEN 属格助詞／HON 敬称／INS 具格助詞／LOC 所格助詞／M 男性話  
者／NAME 固有名詞／NC.RLS 名詞化節標識.叙実法／NMLZ 名詞化／NOM 主格助詞／OBL  
斜格／PAST.T 過去時格助詞／PL 複数接尾辞／PLT 丁寧法／QUOT 引用標識／TER 到格助  
詞／TOP 主題標識／VS 動詞文標識／VS.IMP 動詞文標識.命令法／VS.INC 動詞文標識.生起  
法／VS.IRR 動詞文標識.叙想法／VS.NEG 動詞文標識.否定法／VS.OPT 動詞文標識.希求法  
／VS.PROH 動詞文標識.禁止法／VS.RLS 動詞文標識.叙実法

## 音韻表記

本稿の音韻表記は基本的に東京外国語大学ビルマ語発音モジュール理論編の岡野式  
(2021)に従っている。<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/my/pmod2/> (2022/9/8 最終閲覧)

## 参考文献

- 大野徹. 1983. 『現代ビルマ語入門』. 泰流社.
- \_\_\_\_\_. 2000. 『ビルマ (ミャンマー) 語辞典』. 大学書林.
- 岡野賢二. 2003. 「現代口語ビルマ語の「行く・来る」」. 『東南アジア大陸部諸言語  
の「行く・来る」』. 東南アジア諸言語研究会編. 慶応義塾大学言語文化研  
究所.
- \_\_\_\_\_. 2007. 『現代ビルマ(ミャンマー)語文法』. 国際語学社.
- Okell, John. 1969. *A Reference Grammar of Colloquial Burmese Volume 1&2*, Oxford University  
Press.
- Okell, John and Allott, Anna. 2017. *Burmese/ Myanmar Dictionary of Grammatical Forms*.  
Second Edition. Pansodan Books.
- 加藤昌彦. 2019. 『ニューエクスプレスビルマ語プラス』. 白水社.

澤田英夫. 1999. 『ビルマ語文法 (1年次)』.

<http://www.aa.tufs.ac.jp/~sawadah/burtexts/burgram1.pdf> (2022/9/8 最終閲覧)

\_\_\_\_\_. 1998. 『ビルマ語文法 (2年次)』.

<http://www.aa.tufs.ac.jp/~sawadah/burtexts/burgram2.pdf> (2022/9/8 最終閲覧)

\_\_\_\_\_. 2012. 『文語ビルマ語文法』 [改訂版]. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

<http://www.aa.tufs.ac.jp/documents/training/ilc/textbooks/2012burmese1.pdf>(2022/9/8 最終閲覧)

本業沙織. 2013. 『現代ビルマ語の継続を表すアスペクト形式の研究』. 博士論文.  
大阪大学大学院言語文化研究科

前田直子. 2006. 『「ように」の意味・用法』. 笠間書院.

\_\_\_\_\_. 2022. 「『ように』と『ようだ』は意味がどのようにつながっているか」. 田中祐輔 (編). 川端祐一郎他 (著). 『上級日本語で考えたいくなる科学の問い (上) -文化と社会篇-』 pp. 108-110. 凡人社.

\_\_\_\_\_. 2022. 「『3年前に日本に来たし、今、町田市に住んでいます』はなぜ不自然か?」. 田中祐輔 (編). 川端祐一郎他 (著). 『上級日本語で考えたいくなる科学の問い (上) -文化と社会篇-』 pp. 182-183. 凡人社.

藪司郎. 1992. 「ビルマ語」. 亀井孝・河野六郎・千野栄一(編). 『言語学大辞典』. 第3巻世界言語編(下-1) pp.567-610. 三省堂.

## 付録

例文のビルマ語表記

翻訳 A-1 : မိနာကို က အံ့အားသင့်သွားသလိုနဲ့ ထအော်လိုက်တယ်။

翻訳 A-2 : မိနာကို က အံ့အားသင့်သွားတဲ့ပုံစံနဲ့ ထအော်လိုက်တယ်။

翻訳 B-1 : မနေ့က မိုးမရွာသလိုပဲ။

翻訳 B-2 : မနေ့က မိုးမရွာဘူး(လို့) ထင်တယ်။

翻訳 C-1 : စာမေးပွဲအောင်ဖို့((လို့)အတွက်) အပတ်တကုတ် ကြိုးစားခဲ့တယ်။

翻訳 C-2 : စာမေးပွဲအောင်အောင်(လို့) အပတ်တကုတ် ကြိုးစားခဲ့တယ်။

翻訳 D : မနက်ပိုင်း ဖုန်းဆက်ဖို့ မှာတယ်။

(1) ဝယ်လိုအားနဲ့ ရောင်းလိုအားက အပြန်အလှန်သက်ရောက်မှု ရှိသလိုပဲ။

(2) ဝယ်လိုအားနဲ့ ရောင်းလိုအားက အပြန်အလှန်သက်ရောက်မှု ရှိသလိုလိုပဲ။

(3) ဝယ်လိုအားနဲ့ ရောင်းလိုအားက အပြန်အလှန်သက်ရောက်မှု ရှိတဲ့ပုံပဲ။

(4) တာနာကစံ ပြင်သစ်လို ပြောတတ်သွားပြီ။

(5) တာနာကစံ ပြင်သစ်လို ပြောတတ်လာပြီ။

(6) မြင်သွားပြီ။ ကြားသွားပြီ။

(7) မြင်ရပြီ။ ကြားရပြီ။

(8) ဒီနေရာကို ဘယ်သူ့မဆို သုံးလို့ရအောင် လုပ်တယ်။

(9) ဌာနမှူးကလက်အောက်ကဝန်ထမ်းတွေကို အလုပ်စောစောသိမ်းဖို့ {ပြောတယ်/အမိန့်ပေးတယ်}။

- (10) ဌာနမှူးက လက်အောက်ကဝန်ထမ်းတွေကို အလုပ် စောစော သိမ်းခိုင်းတယ်။
- (11) ဒီ PC ကို အမြင်အာရုံချို့ယွင်းတဲ့သူတွေလည်း အသုံးပြုနိုင်အောင် ဒီဇိုင်းဆွဲထားတယ်။
- (12) ဒီ ရာထူးတိုးစနစ်က အမျိုးသားတွေအတွက် အကျိုးရှိအောင် လုပ်ထားတယ်။
- (13) ဂျပန်လူမျိုးတွေက သူတစ်ပါးကို အနှောင့်အယှက် မပေးမိအောင် အမြဲသတိထားနေတယ်။
- (14) ဒီနေရာမှာ အရင်တုန်းက ဘုရားရှိခိုးကျောင်းကြီးတစ်ခု ရှိခဲ့ဖူး သလိုပဲ။
- (15) ဒီနေရာမှာ အရင်တုန်းက ဘုရားရှိခိုးကျောင်းကြီးတစ်ခု ရှိခဲ့ဖူးတယ်(လို့) ထင်တယ်။
- (16) သူတို့ဟာ ဒီမိုကရေစီပါတီအကြီးပိုင်းတွေက ထရမ်အပေါ်ဝေဖန်နေမှုကို ကြားသိပြီး  
မိမိတို့ကိုလည်း လှောင်ပြောင်နေသလို ခံစားမိကြတယ်။
- (17) ဒီ ရလဒ်ကိုပဲ ကြည့်မယ်ဆိုရင်တော့ ခုနက ပထမရှင်းပြချက်က မှန်သလိုလိုပဲ။
- (18) ဒီ ရလဒ်ကိုပဲ ကြည့်မယ်ဆိုရင်တော့ ခုနက ပထမရှင်းပြချက်က မှန်သလို ထင်ရတယ်။
- (19) ဒီ ရလဒ်ကိုပဲ ကြည့်မယ်ဆိုရင်တော့ ခုနက ပထမရှင်းပြချက်က မှန်တယ်လို့ ထင်ရတယ်။
- (20) အလွန်တစ်သားတည်းကျနေတဲ့ လူ့အဖွဲ့အစည်းမှာ သက်ရှင်နေသူတွေကို အပိတ်သဘောဆန်  
နေသလို မြင်ရပါတယ်။
- (21) “မဖြစ်နိုင်ဘူး” ဆိုပြီး အံ့ဩသွားတဲ့ပုံနဲ့ ပြောလိုက်တယ်။
- (22) ??လွင့်ပျံ့ကုန်သလို အလွန်ရောင်းရတယ်။
- (23) လယ်ပြင်မှာ ဆင်သွားသလို ထင်ရှားတယ်။
- (24) ဒဏ်ရာပြင်းတာတောင် ဘာမှမဖြစ်သလိုနဲ့ တစ်ယောက်တည်း လမ်းလျှောက်ပြန်လာတယ်။
- (25) ဒဏ်ရာပြင်းတာတောင် ဘာမှမဖြစ်တဲ့ပုံ(စံ)နဲ့ တစ်ယောက်တည်း လမ်းလျှောက်ပြန်လာတယ်။

(26) ဒဏ်ရာပြင်းတာတောင် ဘာမှမဖြစ်တဲ့အတိုင်း တစ်ယောက်တည်း လမ်းလျှောက်ပြန်လာတယ်။

(27) ဒီသုတေသနရလဒ်ကို ဒီလို အကျဉ်းချုပ်လို့ရပါတယ်။

(28) ဤသုတေသနရလဒ်ကို အောက်ပါအတိုင်း စုစည်းဖော်ပြနိုင်သည်။

(29) ရေခဲလို အေးစက်တယ်။ (大野 1995: 604)

(30) ကျနော် ပြောသလို လုပ်စမ်းပါ။ (大野 1995: 604)

(31) ကမ္ဘာကြီးသည် လိမ္မော်သီးကဲ့သို့ လုံးဝိုင်းသည်။ (大野 1995: 604)

(32) နှစ်ယောက်တည်းစကားပြောသကဲ့သို့ ပြောသည်။ (大野 1995: 604)

(33) အမြန်လာဘို့\*ပြောပါ။ (大野 1995: 604) 《\*ω/pʰa/を ဝို/pʰô/と綴る場合もある。》

(34) ကျောင်းချိန်မှီ\*အောင် တက်ပါ။ (大野 1995: 604) 《\*現代正書法では 𑜄𑜂𑜫 と綴る。》

(35) အိပ်မပျော်ရန် ကြိုးစားသည်။ (大野 1995: 605)

(36) ဒီအတိုင်းလုပ်ပါ။ (大野 1995: 605)

(37) ကျန်းမာပါစေ။ (大野 1995: 605)

(38) မနက်ဖန်အတွက် တွေးပူမနေနဲ့။ (大野 1995: 527)

(39) လက်ဆေးဘို့ ဆပ်ပြာလိုတယ်။ (大野 1995: 527)

(40) မျောက်လို ဆော့တယ်။                    / မျောက်ကဲ့သို့ ဆော့သည်။

(41) မနော့က မိုးရွာသလိုပဲ။                / မနော့က မိုးရွာတဲ့ပုံပဲ။

(42) မနော့က မိုးရွာသလိုလိုပဲ။

(43) မနက်ဖန် မိုးရွာမလိုပဲ။                / မနက်ဖန် မိုးရွာမယ့်ပုံပဲ။

(44) မနက်ဖန် မိုးရွာမလိုလိုပဲ။

(45) အကောင်းကြီး မဟုတ်သလို အဆိုးကြီးလည်း မဟုတ်ဘူး။

(46) (a) တချို့တွေက နေနိုင်လွန်းကြသလို တချို့တွေကျတော့လည်း ကိုယ်ကျိုးစွန့်လွန်းကြတယ်။

(b) တချို့တွေကနေနိုင်လွန်းကြသလောက် တချို့တွေကျတော့လည်း ကိုယ်ကျိုးစွန့်လွန်းကြတယ်။

(47) ဆရာဆာတိုးက စာသင်ကောင်းသလို ကျောင်းသားတွေအပေါ်လည်း ကရုဏာထားတယ်။

(48) ဒီဆိုင်က ခေါက်ဆွဲက ဈေးသက်သာသလို စားလို့လည်းကောင်းလို့ တစ်ပတ်တစ်ခါတော့ လာစားဖြစ်တယ်။

(49) ဒီဆိုင်က ခေါက်ဆွဲက ဈေးသက်သာသလို အရသာလည်းကောင်းတယ်။

(50) သူတို့ရဲ့ပြဇာတ်က ပညာသားပါသလို ရယ်လည်းရယ်ရတယ်။

(51) အရမ်း အားနာရသလို ကျေးဇူးတွေလည်း အထပ်ထပ် တင်ရပါတယ်။

(52) လူငယ်တွေရဲ့အတွေးက ခေတ်သစ်ကို ဖန်တီးလိုက်သလို ခေတ်ကြီးကလည်း လူငယ်တွေရဲ့အတွေးကို ပိုမို ရင့်သန်အောင် ပျိုးထောင်ပေးနေပါတယ်။

(53) လူတွေမှာ အသက်ရှိသလို အပင်တွေမှာလည်း အသက်ရှိတယ်။

(54) ကျန်းမာအောင်နေပါ။ ⇒ ကျန်းမာစွာနေပါ။

(55) ပျော်အောင်နေပါ။ ⇒ ပျော်ရွှင်စွာနေပါ။

(56) သေအောင်အိပ်တယ်။ ⇒ အသေ အိပ်တယ်။

(57) သေတဲ့အတိုင်း အိပ်နေတယ်။ / အသေကောင်လို အိပ်နေတယ်။

(58) (a) ဆုံးအောင်ကြည့်ပေးတဲ့အတွက် ကျေးဇူးတင်ပါတယ်။

(b) အဆုံး(အ)ထိကြည့်ပေးတဲ့အတွက် ကျေးဇူးတင်ပါတယ်။

(c) ဆုံးတဲ့အထိကြည့်ပေးတဲ့အတွက် ကျေးဇူးတင်ပါတယ်။

(59) (a) ကုန်အောင်/ အကုန်စားမယ်။ ⇒ ကုန်တဲ့အထိ(အောင်)စားမယ်။

(b) ပြီးအောင်/ အပြီးရေးမယ်။ ⇒ ပြီးတဲ့အထိ(အောင်)ရေးမယ်။

(c) ဝအောင်/ အဝစားမယ်။ ⇒ ဝတဲ့အထိ(အောင်) စားမယ်။

(d) ရောက်အောင်/ အရောက်သွားမယ်။ ⇒ ရောက်တဲ့အထိ(အောင်) သွားမယ်။

(e) ကွဲအောင်/ အကွဲခွဲမယ်။ ⇒ ကွဲတဲ့အထိ(အောင်) ခွဲမယ်။

(f) ပြတ်အောင်/ အပြတ်ဖြတ်မယ်။ ⇒ ပြတ်တဲ့အထိ(အောင်) ဖြတ်မယ်။

(g) သေအောင်/ အသေသတ်မယ်။ ⇒ သေတဲ့အထိ(အောင်) သတ်မယ်။

(h) နိုင်အောင်/ အနိုင်တိုက်မယ်။ ⇒ နိုင်တဲ့အထိ(အောင်) တိုက်မယ်။

(60) ပုပ်အောင်/အပုပ် ထားတယ်။ ⇒ အပုပ်ခံ (ထား)တယ်။

(61) ခြောက်အောင်/အခြောက် ထားတယ်။ ⇒ အခြောက်ခံ (ထား)တယ်။

(62) အေးအောင်/အအေး ထားတယ်။ ⇒ အအေးခံ (ထား)တယ်။

(63) (a) ကောင်းအောင်လုပ်တယ်။ (b) ဆိုးအောင်လုပ်တယ်။

(64) အများသိအောင်/ဖို့ကြေညာတယ်။

(65) အများသိရန်/စေရန် (/စေဖို့) ကြေညာသည်။

(66) ပြဿနာမဖြစ်အောင်/ဖို့ သည်းခံရမယ်။

(67) ပြဿနာမဖြစ်ရန်/စေရန် (/စေဖို့) သည်းခံရမည်။

(68) ဖုန်း ပိတ်ထားပေးဖို့/\*အောင် မေတ္တာရပ်ခံအပ်ပါတယ်။

(69) ဖုန်း ပိတ်ထားပေးပါရန်/\*စေရန် မေတ္တာရပ်ခံအပ်ပါသည်။

(70) လက်ဆေးရန်                      နှာခေါင်းစည်းတပ်ရန်                      ပြတင်းပေါက်ဖွင့်ရန်

(71) မပြောဖို့/အောင် တားတယ်။

(72) (ကျွန်တော်) ပြန်ဖို့/\*အောင် လုပ်နေတယ်။

(73) (ကျွန်တော်) ပြန်ဖို့/\*အောင် စဉ်းစားနေတယ်။

(74) (သူ) ကျွန်တော့်ကို ပြန်အောင်/\*ဖို့ လုပ်တယ်။

(75) သူတစ်ပါး ဒုက္ခရောက်အောင်/\*ဖို့ မလုပ်ချင်ပါနဲ့။

(76) စိတ်ကူးနဲ့ လက်တွေ့တစ်ထပ်တည်းကျအောင်လုပ်ဖို့/\*အောင် အင်မတန် ခဲယဉ်းလှတယ်။

(77) စိတ်ကူးနဲ့ လက်တွေ့တစ်ထပ်တည်းကျဖို့/\*အောင် အင်မတန် ခဲယဉ်းတယ်။

(78) ကျွန်တော် တက္ကသိုလ်ဝင်ခွင့်စာမေးပွဲ ဖြေဆိုဖို့/\*အောင် လျှောက်ထားပြီးပြီ။

(79) စိတ်ကူးနှင့် လက်တွေ့တစ်ထပ်တည်းကျရန်/\*စေရန် (/စေဖို့) အင်မတန် ခဲယဉ်းသည်။

(80) ကျွန်တော် တက္ကသိုလ်ဝင်ခွင့် စာမေးပွဲ ဖြေဆိုရန်/\*စေရန် (/စေဖို့) လျှောက်ထားပြီး ဖြစ်သည်။